

はじめにお読みください！

LD-WLS54AG/AP LD-WLS54G/AP

使用上のご注意と機能の制限について

F/W V2.16用

本製品のユーザズマニュアルに記載されていない使用上のご注意と機能の制限について説明しております。お手数ですがユーザズマニュアルと併せてこの説明書もお読みいただくようお願いいたします。

LD-WLS54AG/AP、LD-WLS54G/AP共通の制限事項

- ①ブリッジモード使用時はAPステルス機能を使用することはできません。
ブリッジモードを使用する場合はAPステルス機能を「無効」に設定してください。
- ②WPA-PSKおよびWPA-EAPとロードバランス機能を同時に使用することはできません。
WPA-PSKおよびWPA-EAPを使用する場合はロードバランス機能を無効に設定してお使いください。WEPでは問題なく使用できます。
- ③ブリッジモードとロードバランス機能を同時に使用する場合、ご使用の環境によっては接続が不安定になる場合があります。
このような場合は、ロードバランスを使用する代わりに、各アクセスポイントに異なったSSIDを設定するなどしてトラフィックを分散するようにしてお使いください。
- ④ブリッジモードとスーパーAGモードを同時に使用する場合でも、ブリッジ接続によるAP間の通信はスーパーAGモードではなくノーマルモードの通信速度になります。
AP=アクセスポイント
ブリッジ接続のAP間はスーパーAGモードが有効/無効に関係なく常にノーマルモードの通信速度になります。「ブリッジ+アクセスポイントモード」を有効にしている場合は、ブリッジ接続のAP間ではノーマルモードに、アクセスポイントモードでのAP⇄クライアント(無線LAN端末)間ではスーパーAGモードでの通信速度になります。※
※クライアントがスーパーAGモードを有効にしている必要があります。
- ⑤IEEE802.1X認証を使用する場合で、認証にアクセスポイント(MD5)を使用するときのユーザ名とパスワードに設定可能な文字は以下のとおりです。
ユーザ名：半角英数字15文字まで
パスワード：半角英数字15文字まで

LD-WLS54AG/APの制限事項

ブリッジモードを使用している場合、ブリッジ経由でのIEEE802.1X認証(WEP、WPA-EAP)はできません。

例：2台のアクセスポイント(AP1, AP2)を以下のとおり設定し、802.11aブリッジで接続する

- ・802.11a：ブリッジモード / WEP128bit
- ・802.11g：アクセスポイントモード / WPA-EAP / TKIP TLS
- ・AP2をRADIUSサーバへ接続する

この環境で以下のように接続する

- ①無線クライアントから802.11gを使ってAP1に接続
- ②802.11aブリッジ経由でAP1からAP2へ接続
- ③AP2からRADIUSサーバに接続

この場合、TLS認証を行っても認証は成功しません。